

## 健康創造都市 KOBE 推進会議／令和4年度総会 発言概要

- 日 時 : 令和4年7月22日(金) 14:00～15:00
- 場 所 : 明治安田生命神戸ビル4階会議室(オフライン会場)  
Zoomによるオンライン開催(オンライン開催)
- 出席団体 : 35団体
- 議 事 :

### 1. 開 会

### 2. 議 題

#### (1) 健康創造都市 KOBE 推進会議 取り組み報告について

##### ①コンテンツ部会の取り組み報告について(資料1)

##### ●コンテンツ部会・部会長(株式会社アシックス)より【資料1】について説明

- ・コンテンツ部会の活動方針改訂(案)として部会長および副部会長の交代(江崎グリーコとアシックスが1年ごとに部会長を務め(2022年はアシックスが部会長、江崎グリーコが副会長))、協力団体を㈱Moffとして運営していく。
- ・PJ3に新たに「朝食欠食改善のための活動」が始動。
- ・コンテンツ部会は年4回開催し、課題に関して議論し進捗確認。
- ・具体的な活動は5つのプロジェクトにおいて議論を進めている。

##### 1) 神戸市民の健康リテラシー向上させる活動

- ・令和3年度に立ち上げた健康創造都市のHPを活用し、健康情報を広く発信し、市民の健康と暮らしの向上を目指す。

##### 2) 高齢者の介護予防のための活動

- ・ロコモフレイルのような運動機能障害を防ぎ、健康寿命の延伸、QOL向上を通じて神戸をすこやかにすることを目的に議論を進めている。健康創造都市のHPにコンテンツを掲載していく。

##### 3) 妊娠期から中高年までの栄養課題の改善のための活動

- ・「妊娠期を中心とした栄養課題の改善」として、MCKの妊産婦コースなどを活用した妊娠期の運動対応に関する啓発を行っている。
- ・「朝食欠食改善プログラム」として、ナッジのような取り組みを通して、若者世代の朝食欠食を減らし、健康課題を解決していくべく、実証実験を実施し、現在は結果分析中。

##### 4) 中高年から高齢者の認知機能向上のための活動

- ・脳機能に着目したフィンランドのFINGER(フィンガー)研究の神戸版として、運動・脳トレ・栄養といった3本柱でコンテンツ提供をすることで、認知機能の低下予防ができないか、また、参加者をどう集めていくかを検討中。

##### 5) 健康無関心層の行動変容を促すための活動

- ・4/29にフジッコ㈱・ヤノ運動用品㈱・㈱アシックス・㈱JTB神戸支店の4社で発足した神戸あるく部の第一回パンあるきを開催。

- ・神戸新聞に掲載し、目標を上回る 134 名の申込みがあり、そのうち 9 割超が参加。
- ・第二回は酒あるきを 9 月に企画中であり、参画企業・団体を募集中。
- ・また、6/30 のコンテンツ部会では、各 PJ からの発表以外に、京都大学大学院 客員研究員 兼 東邦大学医学部 助教の杉本様より、新しい研究プロジェクトとして、レシートのデータから食品購入の内容がどの程度健康的かつ持続可能なものかを評価するスコアづくりの紹介があった。

## ②健康経営部会の取り組み報告について（資料 2）

### ●健康経営部会・部会長（明治安田生命）より【資料 2】について説明

- ・健康経営部会には 40 企業・団体が参画。
- ・明治安田生命が部会長、日本イーライリリーが副部会長を務め、神戸市内の企業や団体における健康経営の促進を支援するための活用を推進。
  - ・健康経営を啓発する活動として、2021 年 3 月より、健康経営に関するコンテンツや、無料のセミナー情報を掲載したメルマガを、月 1 回ペースで参画企業向けに配信開始。また、2021 年 9 月には、コロナ禍をふまえて、「企業向け健康経営セミナー」を初めて「オンライン形式」で開催し、159 名が参加した。
- ・健康経営に関する課題研究として、健康経営実践プロジェクトチームにおいて立ち上げた「“みえない多様性”に優しい職場づくり」プロジェクトでは、偏頭痛など見た目にはわかりづらい症状、周囲に理解されないことで生じる不安や働きづらさを「みえない多様性」として定義し、みえない多様性を理解することによって、一人一人の行動変容と誰もが働きやすい環境を目指すことを目的に取り組んでおり、その活動が認められ、複数のアワードを受賞した。
- ・7/8 に開催した第一回健康経営部会では、「みえない多様性」のワークショップをリアル・WEB の両方で開催し、新聞などでも取り上げられた。
- ・部会で実施したアンケートにおいて、健康経営優良法人の認定を受けたい企業が多数いたことや、認定を受けるための取組みが自社だけでは困難になってきたなどの意見を踏まえ、2022 年度においては、メルマガの発信を継続するとともに、部会メンバーでの取組みの紹介など健康経営優良法人認定に向けた取組みを共有していく。

## （2）MCK の運用及びヘルスケアデータの利活用について

### ●神戸市健康局 朱担当課長より【資料 3】について説明

- ・「MY CONDITION KOBE」の運用について、2023 年 3 月末をもって神戸市によるアプリ運用を終了し、2023 年 4 月からは、アプリを開発した㈱リンクアンドコミュニケーションに移行する。
- ・現在、アプリを利用されている方は、現在のサービスを継続して利用可能であり、新たな利用料も発生しない。また、健康ポイント制度についても継続予定。
- ・これまで MCK のデータを利用した実証事業として、
  - 1) コロナ禍における「My Condition KOBE」を利用した健康増進

2) 健康にやさしいまちづくりのための環境整備にかかる実証事業

3) MY CONDITION KOBE を利用した朝食欠食の改善

を実施してきた。

- ・現在、神戸市では「ヘルスケアデータ連携システム」を運用している。個別の業務システムで管理されている医療・介護のレセプトデータや健診データ、予防接種データなどを個人単位で連結・匿名化したシステム。
- ・このシステムを活用した解析で、心不全発症時や透析導入時に、高血圧を保有している割合が高く、また、生活習慣病の将来推計においても高血圧の患者数及び総医療費が高くなることが示され、高血圧への対策が求められることが分かった。また、併存疾患別の要介護度の変化から、関節疾患や骨折では要介護度が改善する可能性が他疾患より高く、予防やリハビリが重要であることが示唆された。今後、こうした解析を踏まえて、神戸市としての健康課題を整理していきたいと考えている。
- ・このシステムを活用し、様々な学術機関が、6件の研究を実施している。
  - 1) 住民の健康改善に資するエビデンス創出を目指した多地域コホート研究（LIFE Study）
  - 2) レセプトデータを用いた COVID-19 の疫学研究
  - 3) 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けた要支援・要介護リスク予測 AI の開発
  - 4) 健康にやさしいまちづくりのための環境整備にかかる実証事業
  - 5) 肥満度と肥満に合併する健康障害の検討
  - 6) 喘息患者におけるコロナ禍での社会変化による喘息発作の減少効果の正確な検討
- ・今後、こうした研究の結果を広く公表していくので、参画企業においても、健康課題の解決や新たなサービスの創出による市民サービスの向上に向けた取組み等にご活用いただきたい。

### (3) 新型コロナウイルスの感染状況及び健康二次被害・後遺症対策について

#### ●神戸市健康局花田局長より【資料4】について説明

- ・直近、感染者が急増し、第7波と捉えていい状況であり、感染対策の徹底、体調管理について留意いただきたい。また、ワクチンの3・4回目接種については、軽症者であっても、症状が長期にわたる場合もあることから、若年者であってもワクチン接種を推奨している。感染対策としては、不織布マスクの正しい着用、手指衛生、換気などの徹底を継続していただくとともに、軽度の発熱、倦怠感など少しでも体調が悪ければ出勤等外出を控えるようお願いしたい。
- ・コロナ禍において、自粛生活による健康二次被害への対応が課題である。健康二次被害とは、運動不足による生活習慣病の増加や生活環境の変化によるストレスの増加などからうつになることもある。そのほかにも、人との交流の減少によるフレイルや認知症の増加、受診控えによる疾病の悪化など、様々である。
- ・感染者の状況から、生活習慣病有病者は重症化しやすいこと（重症化リスク）、症状

- が、療養終了後6か月以上継続する人がいること（後遺症）などの課題が見えてきた。
- ・これら課題に対する対策として、まず健康二次被害対策として、健診受診率の向上対策や健診事後指導、栄養相談ダイヤル、こころの相談ダイヤル、シニア健康相談ダイヤル、フレイル予防対策に、またコロナの重症化リスク・後遺症対策として、広報紙やHPの活用、健康創造都市KOBEBE推進会議との連携による重症化リスクおよび感染予防策の周知啓発、コロナ後遺症への5つの対策、市内民間事業者や医療機関と連携し、コロナ後遺症に対する理解を求めるための啓発、などを実施している。
  - ・職域でのコロナ後遺症の理解、神戸市で実施している後遺症対策の周知など、ご協力いただけると幸い。

#### （4）今後の推進会議の取り組みについて

##### ●事務局運営調整会議（日本イーライリリー）より【資料5】について説明

- ・事務局運営調整会議において、コロナ禍で様々な変化が生じており、リアルでの会議やイベント開催が出来ておらず、参画団体間でのコミュニケーションがとりづらい状況であること、また、健康創造都市について、市民に取組みがあまり知られていないことなどが課題ではないかという意見があった。
- ・今後、健康創造都市KOBEBE推進会議を活性化していくために、参画団体間での推進会議に対する共通認識を持つことが重要と考える。
- ・そこで、事務局調整会議として、健康創造都市のコンセプトや、それぞれが推進会議に求めていることを共有し、それらの思いを形にしたシンボルロゴの作成を提案する。
- ・ロゴを作成することが目的というわけではなく、ロゴを作成するにあたり、思いを共有していく中で、事業の提案や検討をし、推進会議を活性化していったらどうか。皆様のご意見を伺いたい。

##### ●意見交換

ヤノ運動用品(株)：

- ・コロナ禍でオフラインでの会議が激減し、オンライン会議が主流となっている。オフライン会議であれば、会議終了後に名刺交換や挨拶、意見交換が出来、そこからイベントや事業につながることもあり、この推進会議でも過去、そのようなことがあったが、オンライン会議ではそうはいかない。オンライン会議は、関係性が構築されてからであれば、問題ないが、初対面でのオンライン会議だと、会議後に残ってもらった意見交換などが出来ない。ぜひ、オフラインでの意見交換の場をコンセプトの共有などを通じて、設けていただきたい。また、シンボルロゴの作成については、そうした理念のもと進められるのであれば、ぜひ進めてほしい。

(株)神戸新聞社：

- ・推進会議は健康をキーワードに多くの企業・団体が所属しており、これだけの規模であれば、様々なことが出来ると思う。ご提案のとおり、そもそものコンセプトの

共有や各企業の思いなどを共有することは大事。またそれらの思いを形にしたシンボルロゴの作成はおもしろい取組みと感じる。私も協力したい。

橋本座長：

提案に対する意見を踏まえ、今後のシンボルロゴの作成に関する動きについては、事務局に預ける。

### 3. その他

#### 風しんの追加的対策への協力について（資料6）

●神戸市健康局保健所 橋詰担当課長より【資料6】について説明

- ・S37. 4. 2～S54. 4. 1 生まれの男性が対象。対象者には抗体検査の無料クーポンを8月中旬に送付予定。抗体検査の結果、十分な抗体がない方については、予防接種も無料で可能。

風しんは、感染力が強く、成人で罹ると、子供より重症化しやすい。また、妊娠早期の女性が感染すると、障がいがある赤ちゃんが生まれてくる可能性があり、この対策を引き続き、進めていく必要があることを伝える。

周知依頼とともに職場の健康診断における風しん抗体検査の実施について理解・協力依頼。

### 4. 閉会